

たびだちの手紙

ハルドゥーン フセイン
Khaldoon Hussienさん

From シリア (Syrian Arab Republic)

おふいすめんばー さいご きねんさつえい
I-HOUSEオフィスメンバーと最後の記念撮影



夏は、卒業や帰国される方々が多くなりっやいます。約2年間、I-HOUSEのファミリーだった彼もまた、今年の8月で退去しました。今回は特別に、I-HOUSEファミリーへのお手紙を執筆していただきました。日々、出逢いを大切にしてきたハルドゥーンさんの、広島愛が詰まった素敵なお手紙です。

広島... いよいよ送別

「広島って、あれ、原爆の場所でしょう。危ないじゃない」安全に恵まれていたシリアの友人が心配してくれた。「大丈夫でしょう」シリア以外の土地を何も知らない私にとって、おじさんがベテランの立場だった。というわけで、新しい土地に微妙な不安を持ちながら、4年前に来日した。日本で初めて出会った町は、広島だった。パンの代わりに毎日3回のお米、ごみを回収するときのルール、昼の部屋・・・新しい生活に慣れるまで、安らげなかった。一ヶ月で学生証、在留カード、銀行カード(2枚)、買い物カード、保険証、ジム会員カードなどで財布が膨らんだ。しかもパスワードを覚えなれないといけない。日本人はカードが好きなのかな。この国に5年いたら、何枚になるだろう。もっと大きい財布を準備するべきかもしれない。

どんどん慣れようとしたところでシリアの状況が悪化し、ニュースが私を不安にさせた。実家のことを思い、ストレスが貯まっていた。シリアについてテレビでしか知らない人に聞かれたとき、何を言うか戸惑っていた。シリアを安全な国だと自慢していた私は、大きなショックを受けた。

この間、広島の静かな田舎で放っておいた自転車も盗られないくらい、安全な日々を過ごしていた。やっぱりおじさんが正しかった。ホームシックの私に、蛙の鳴き声しか聞こえない夜は寂しかった。

広島大学での1年半は、あっという間にたった。そのころになると、広島市内への移動にわくわくしていた。市民との振れ合いや、いろいろな活動ができる場所にいければ、ホームシックにいい薬になるんじゃないかと思っただけ。ぴったりの場所が、留学生会館だった。

スタッフの親切さやこころの広さで感動し、市民にも憧れ、好きなスポーツ、文化の活動など、あらゆる場所で興奮した。建物を経営している会社が変わっても、サービスの素晴らしさはそのままだ。これこそ日本の「おもてなし」だ。

かつて、尊厳が傷つけられても死亡を拒み、再び立ち上がるだけでなく、平和や愛を配ろうとしている広島は、私にとってのアイドルになりました。愛しい女性のようにも感じます。このような女性に惚れこみましたが、人生は一期一会です。

いよいよお別れの日が近づいてきました。私は、大阪大学へ進学することになりました。日本へ訪れ、国を離れたときの涙が今更振り返られました。新しい門出はうれしくもあり、かなしくもあります。

「広島の皆様へ」

長い間、お世話になりました。本当にありがとうございます。西条や市内でまじめな方と勉強できる機会は、かけがえのないものでした。アルバイトなどでも、優しくて心広い方にお世話になりました。感謝の気持ちでいっぱいです。私を通し、シリアのいいイメージが伝えられたのではないかと期待しています。これまでに、不適切なマナーがあったとしたらお詫び申し上げます。ほんとうに、日本の初恋は広島じゃけい。おいしい広島。また皆さんにお会いできる日を、楽しみにしています。」

ハルドゥーン・フセイン 06/08/2014

シリアの現状を多くの人に知ってもらおうと熱心だったハルドゥーンさん。新聞に投稿したり、講演会を開催するなどして、常に精力的に活動されていました。これからも、日本とシリアを繋ぐ架け橋として活躍されることでしょう。ご卒業おめでとうございます。そして、大阪でのさらなるご活躍をお祈りしています！

編集後記 Editor's Voice

皆さん、夏休みは楽しんでいますか？今年の夏は全国的に雨が多かったですね。広島市内では大規模な土砂災害が発生し、現在も多くの市民が避難生活を強いられています。先日I-HOUSEの居住者から、自ら被災地に出向きボランティア活動に参加したいと申し出がありました。本当に素晴らしいことだと思えます。退去される方々との別れが寂しくもあり、新たな出会いに胸が躍る今日この頃ですが、スタッフ一同、皆さんとの交流を大切に日々過ごしていきたいと思っています。いつでも事務室の私たちに声を掛けてくださいね！



MAMI (緑島)



館長のデッサン

鐘突きで宇留鎮まわり
原爆忌